

新型コロナ緊急要望第9弾

「第6波の感染急拡大から区民の命・暮らし守れ」

2月3日、共産党区議団が、濱野区長に緊急要望を行いました。



2022年2月3日

品川区長 濱野 健 様

日本共産党品川区議団

新型コロナウイルス第6波の感染急拡大への対策を求める緊急要望 (No9)

年明けからオミクロン株によるコロナ感染が急拡大し、東京都の新規感染者は2月2日には初めて2万人を超え、品川区でも一日の新規感染者が700人を超えるなど異常事態です。保育園や幼稚園、小中学校など子どもたちにまで感染が大きく広がっているのが特徴の一つであり、閉園や学級閉鎖も余儀なくされています。

どこでも検査キットが不足し、濃厚接触者であっても、また症状があっても軽症で若年、基礎疾患がない人は「みなし陽性者」とされ、検査が受けられない状況になっています。都の病床使用率は50%を超え、脳疾患や心疾患などコロナではない救急患者が何時間も搬送先が見つからない事態が起こっています。また、医療従事者が濃厚接触者となり外来の診療が止まるなど、第5波とは違う形で医療ひっ迫が起き、さらに深刻になることが懸念されています。そうした中、自宅療養者は第5波以上に増え、不安が広がっています。

感染爆発を食い止め、区民の命と暮らし、営業を守るため以下の対策を緊急に要望します。

記

1, 3回目ワクチン接種について

- ①一般区民も含めて2回目接種から6か月後に速やかに接種できるよう、集団接種会場を増設し体制を整えること。
- ②ワクチンの必要数を確保できるよう国に求めること。
- ③介護や保育、教育などエッセンシャルワーカーが優先接種できる体制をとること。

2, PCRや抗原検査の拡充について

- ①検査能力のひっ迫が深刻な状況になっている。有症状者の検査、医療従事者への検査に支障をきたさないよう、医療機関への検査キットの安定供給を国に求めるとともに区としても取り組むこと。
- ②保育園や学校等で感染拡大が起こっているが、濃厚接触者が検査を行うか否かを本人任せにするのではなく、1人感染者が出たら広く検査を行い、疫学調査を継続し区が感染の実態を把握すること。
- ③定期頻回検査は高齢者・障害者の入所施設だけでなく、通所施設、ヘルパーステーションなど介護職全般、さらに保育園やすまいるスクール、学校等のエッセンシャルワーカーまで対象を拡大するよう東京都に求めること。区としても独自に行うこと。
- ④抗原検査キットを区として確保し、希望する保育園やすまいるスクール、学校、介護事業者等に配布すること。
- ⑤東京都のPCR等無料検査個所を区内に増やすために、区として事業所に呼びかけること。また、品川区としても東京都の無料検査の制度を活用し、会場を無償提供し区民の無料検査の体制を拡充すること。
- ⑥区独自の取り組みとして、他区が実施している無料の検査キットの配布や大型バスによる移動式検査など検査事業所とも連携し無料検査の仕組みを構築すること。

3, 自宅療養者急増への対応として、医師会や薬剤師会と連携し、往診体制とオンライン診療、薬剤配送などの体制を強化すること。

(裏面に続く)

- 4, 自宅療養者に対して、パルスオキシメーター貸し出しの案内を必ず行うこと。また、基礎疾患などリスクの高い人にはもれなく貸し出すこと。
- 5, 自宅療養者への食糧の配布が1週間後など、第6波の感染急拡大に東京都の対応が追いつかない状況を改善させるため、区が体制をとって食料を配布すること。
- 6, 保健所が、感染状況の把握と陽性者や濃厚接触者への相談や支援、また、保育園や学校、事業所等からの相談・支援が適切に行えるよう人員の確保を行い、第5波までの異常な長時間労働とならない体制をとること。
- 7, 子育て世帯・住民税非課税世帯への臨時特別給付金について、申請が必要な対象者への周知と申請への積極的な勧奨を行うこと。
- 8, 住民税非課税世帯と同じ収入、同じ世帯構成でありながら住民税が課税されている世帯に対して、臨時特別給付金を支給するよう国に求めること。国が行わない場合区独自に支給すること。
- 9, コロナ禍の下で子どもの心身のケアにあたる子ども・若者支援フリースペースやチャイルドライン、児童センターやすまいるスクールなどの人的体制への予算を増額し、子どもへの支援を強化すること。
- 10, コロナ禍で増える虐待やDVから子どもを守るため、相談窓口や支援制度についてポスターやSNSなどでの周知、関係機関の連携を進めること。
- 11, 事業復活支援金について事業が続けられる給付額への増額、迅速に支給される手続きへの改善を国に求めること。
- 12, 芸術・文化関係者などへの支援を含め中小企業や個人事業主への区独自の給付金を実施すること。
- 13, 新型コロナウイルス感染症対応特別助成金（販路拡大支援助成）は、1回のみでの利用ではなく2回目の利用もできるようにすること。渋谷区のように営業で使うマスクや消毒液も助成対象とすること。
- 14, 住居確保給付金や緊急小口資金、総合支援資金等のコロナ特例支援制度を、3月末で期限を切って打ち切りにするのではなく、コロナ収束まで継続すること。緊急小口資金、総合支援資金の返済について、生活状況が改善せず苦境に立たされている住民税課税者に対して相談体制をとることと返済免除など柔軟な対応ができる仕組みをつくるよう国に求めること。

以上

品川区のコロナ陽性者・自宅療養者への対応

○小学生の子供がコロナ陽性になり、濃厚接触者となった親も翌日検査にて陽性。その後保育園児の弟が発熱・咳などの症状があるが、陽性者の親が医療機関に連れていくことはできず、保健所では往診を探してくれているが見つからない。薬ももらえず、どうすればいいかとの相談が寄せられました。
 ➡オンライン診療を受け、薬も届けてもらうことができました。パルスオキシメーターも翌日配送されました。

- ①オンライン診療：18医療機関が登録。
診療時間：月～金＝9時～17時、土＝9時～12時
- ②往診：区内66医療機関が登録
診療時間：基本は平日の日中、夜間・休日は要調整
- ③薬剤配送：78薬局が登録
- ④パルスオキシメーターの貸し出し
- ⑤食糧配送支援
- 品川区 新型コロナウイルス感染症に関する電話相談窓口
TEL：03-5742-9108（受付：午前9時から午後5時まで・平日のみ）
- 東京都 新型コロナウイルス感染症に関する電話相談窓口（新型コロナウイルスコールセンター）TEL：0570-550571（受付：午前9時から午後10時まで・土日祝日を含む）

生理用品を区立学校のトイレに

これまで、防災備蓄品を活用していたものを区が予算化します。全区立学校（46校）の高学年女子トイレ内に生理用品の無償配備が継続されることになりました。

生理用品の配布は以下の場所で引き続き、事前申し込み不要、無料で行っています。＜配布場所＞

- ①子育て応援課②暮らし・しごと応援センター③男女共同参画センター④品川保健センター⑤大井保健センター⑥荏原保健センター
- *受け取りやすい時間や場所の拡充を求めています。

3月末で下記の制度申請が終了します。申請を急いで！

- 緊急小口資金、総合支援資金：コロナで減収となった方への貸し付け（問い合わせ：品川区社会福祉協議会・03-5718-7171）
- 住居確保給付金3か月間の再支給の申請（問い合わせ：品川区暮らし・しごと応援センター：区役所3F・電話番号：03-5742-9117）
- 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金
緊急小口資金等の特例貸付を利用できない世帯で一定の要件を満たす生活困窮者を対象に支給。詳しくは品川区生活困窮者自立支援金コールセンター：電話：050-3155-3855

感染爆発という状況のもと暮らしはさらに追い詰められています。支援の打ち切りは許せません。「支援を打ち切るな、拡充こそ」の声をあげましょう。